

まずは倒伏防止と立茎管理をしっかりと行いましょう
そして、**夏秋どいすることが茎枯病を抑える株管理です。**

1. 倒伏防止：アスパラガスは茎葉の揺れに弱い作物です。突風等で根元が傷つけられると草勢が弱まり収量低下の大きな要因となります。

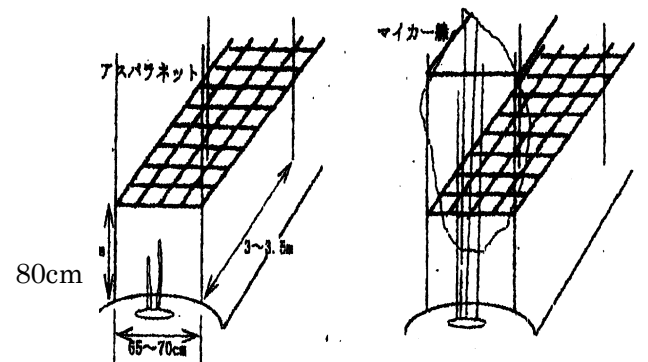
◎薬剤散布・茎葉整理等の管理作業を容易にするためにも、右図のように支柱を立てて倒伏を防ぎましょう。

マイカー線・ポリベルの代わりにアスパラネット（4目）が有効です。

【アスパラネット：1目15cm角、4目（60cm）、長さ100m、10a当り6巻必要】

◎畦巾が広い場合や密植栽培等では、5目を使用する。

1年目に使用する場合、5目を半分に切って使用してもよい。



2. 茎葉整理

①1～2年目の立茎管理

◎1～2年目は特にスリップスによる被害が大きいため発生に注意する。

◎2年目は極細の茎を整理し、できるだけ太い茎の発生を促し株の充実を図る。1株当り草丈150cm以上でL級程度の茎が5～6本以上確保できた場合は、萌芽の活性化やむれを防止する上からも夏秋どりを行う。
（目安：8月中旬まで）

②3年目以降の立茎管理

【夏秋どり及び長期どりの園地】

◎1株あたり草丈150cm以上で太さL級程度（3～4本Lクラス）の茎を4～5本前後確保しながら、夏秋収穫してください。

【夏秋収穫をしない園地】

◎1株あたり草丈150cm以上でL級程度（3～4本Lクラス）の茎を6本程度確保する。

【共通】

◎1株の中で間隔をあけて（1ヶ所に集中しないように）立茎する。

◎養成茎の太さの揃いや配置をよくするため、雨よけハウスでは、だらだら立茎により通常の打切より少し早めに行い、理想的な茎（3～4本Lクラス）に時間をかけて立茎させる。生育不良の株や本数の少ない株ほど早めに立茎させる。通常の半促成及び露地は、茎枯病対策から一斉に立茎させ防除を徹底する。なお、茎枯病の発生が少なく、夏秋どりする圃場は雨よけハウス（だらだら立茎）に準ずる。

◎弱小茎・奇形茎・倒伏茎の除去は数回行ない、園地環境を良好にしておくことが病害虫の発生防止と養分蓄積の向上につながります。

◎先刈りは、展葉後先端が垂れ下がったところ軽く行ない、あとは茎葉整理で過繁茂を防ぎましょう。

◎下葉は垂れ下がりやすく、雨による泥のはね上がりによって病気の巣となるので、地上30～40cmまでの側枝は除去しておきます。下葉の整理は夏秋収穫の場合、大変重要な作業となります。

◎敷きワラは、雨による泥はね防止・土壌水分の保持・地温の上昇防止など養分蓄積には欠かせない効果があります。長雨・猛暑の前に必ず行なっておきましょう。

◎先刈りと葉の整理は収穫等にあわせて行う。（一斉に行わない）

◎畑の周りの雑草がアブラムシ等の害虫の発生源となるので、きれいにして下さい。

◎穂先が曲がり伸長の停止している若茎があると萌芽の活性が低下し、新しい芽の形成が遅れるので、そのまま放任せず刈り取って下さい。

◎立茎した茎が細い場合に、立茎にふさわしい茎が7月中旬までに発生すれば更新をする。

3. かん水

◎かん水による生育、収量への効果は顕著です。立茎後も定期的に灌水を実施して下さい。特に今年定植する場合は活着するまでかん水をして下さい。

◎立茎中のかん水は茎枯病の発生を助長するので控える。

1m当りの目標立茎本数

春どり	20本
夏秋どり（長期どり）	15～18本 (12～15)

4. 病害虫防除…ここ数年、茎枯病、斑点病が多発し、早期枯れ込みによる減収低下を招いています。立茎開始期の防除が最重要となります。防除間隔をあけすぎず病気を未然に防ぎましょう。

【ハウス栽培の場合】

散布時期		薬剤名	10a 当り 散布量	薬剤調合（水 100 リットル当り）
第 4 回目	5 月下旬	劇モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液 ベンレート水和剤 2000 倍液 を散布する	200 リットル	水：100 リットル 展着剤（アビオンE）：100 ml モスピラン顆粒水溶剤：25 g ベンレート水和剤：50 g
第 5 回目	6 月上中旬	カスケード乳剤 4,000 倍液 コサイド 3000 2,000 倍液散布する。	300 リットル	水：100 リットル 展着剤（ハイテンパワー）：10 ml カスケード乳剤：25 ml コサイド 3000：50 g
特別散布 (疫病対策)	共通	フォリオゴールド 1,000 倍液を株元散布する	300 リットル	水：100 リットル 展着剤（アビオンE）：100 ml フォリオゴールド：100ml
6 月下旬	共通	コルト顆粒水和剤 4,000 倍液	300 リットル	水：100 リットル 展着剤（ハイテンパワー）：10 ml コルト顆粒水和剤：25g

【露地栽培の場合（茎枯病多発ほ場除く）】

散布時期		薬剤名	10a 当り 散布量	薬剤調合（水 100 リットル当り）
第 1 回目	立茎開始 3 日前	アミスター20 フロアブル 2,000 倍液 を散布する。	200 リットル	水：100 リットル アミスター 20 フロアブル：50ml
第 2 回目	第1回散布後 5日以内	ベンレート水和剤 2,000 倍液を散布する。	200 リットル	水：100 リットル 展着剤（ハイテンパワー）：10 ml ベンレート水和剤：50g
第 3 回目	第2回散布後 5日以内	ダコニール 1000 1,000 倍液 を散布する。	200 リットル	水：100 リットル 展着剤（ハイテンパワー）：10 ml ダコニール 1000：100ml
第 4 回目	第3回散布後 5日以内	劇モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液 ベンレート水和剤 2,000 倍液を散布する。	200 リットル	水：100 リットル 展着剤（アビオンE）：100 ml モスピラン顆粒水溶剤：25g ベンレート水和剤：50g
特別散布 (疫病対策)	共通	フォリオゴールド 1,000 倍液を株元散布する	300 リットル	水：100 リットル 展着剤（アビオンE）：100 ml フォリオゴールド：100ml
6 月中下旬	共通	コルト顆粒水和剤 4,000 倍液 コサイド 3000 2,000 倍液を散布する。	300 リットル	水：100 リットル 展着剤（ハイテンパワー）：10 ml コルト顆粒水和剤：25g コサイド 3000：50g
7 月上旬	共通	ベネビア OD 4,000 倍液 シグナム WDG 1,500 倍液を散布する。	300 リットル	水：100 リットル 展着剤（ハイテンパワー）：10 ml ベネビア OD：25 ml シグナム WDG：66g

＊昨年茎枯病が多発したほ場は、収穫打切り後全刈りを実施する。全刈り後すぐに第 1 回目の薬剤を畦面全体に散布し、乾いてから 5cm 以上の盛り土後、芽の高さが 2 ～ 5 cm 程度のときに 2 回目の薬剤散布、その後 5 日以内に 3 回目、4 回目の薬剤を丁寧に散布する。

＊アミスター 20 フロアブル 使用上の注意点

- ・展着剤は使用しない。
- ・薬液が乾きにくい条件下(夕方・曇天時)では使用しない。
- ・雨露等でアスパラガスがぬれている状態では使用しない。

＊通常の展着剤に代えて、アミノメリット特青(500～600 倍)を使用すると樹勢の維持、強化につながります。特に樹勢の低下したほ場は茎葉（ぎ葉）展開時に加用し葉面散布してください。

＊雨の多い場合は、散布間隔をつめてください。